

取手市の文化芸術施策

相馬第1市政協力員 秋田貴雄

1. 小中学校との文化交流

東京藝術大学のキャンパスが取手市にあるという地域性を教育の分野にも活かしていこうとするものです。藝大と取手市内小中学校との交流事業で、児童・生徒の芸術性・感性の向上や情緒の健やかな発達を促すことを目指しています。小学校では美術指導、中学校では、吹奏楽部の音楽指導を、藝大生が行っています。

2. コンサート

市内公共施設を使用し、東京藝術大学音楽学部・大学院音楽研究科の学生により演奏会を開催しています。市民は、身近な公民館ですばらしい演奏を鑑賞することができ、藝大生は練習の成果を発表する場を得られるなど、双方に効果があります。近年は取手市長賞受賞者による記念演奏会や妊産婦向けコンサートも実施しています。



ふれあいコンサート 木管五重奏



市長賞受賞者による記念演奏会



妊産婦のためのコンサート 弦楽四重奏

3. 取手市長賞

東京藝術大学取手校地開設を機に、藝大卒業・修了作品展の優秀な作品に対し、賞を授与し賞賜金を支給するもので、平成4年度から始まりました。学生の卒業後の芸術活動の奨励と市民の文化芸術の向上を目的としています。さらに令和元年度からは音楽分野においても優秀者に賞を授与しています。



忘れないように（日本画）
寸法 縦181.8cm
横227.3cm



幸せになりたい（鍛金）
寸法 高さ122cm
幅 182cm
奥行12cm



小嶋早恵（ピアノ）
音楽研究科 器楽専攻
音楽研究分野



北見エリナ（声楽）
音楽研究科 オペラ専攻
ソプラノ

音楽賞受賞者兩名は、令和7年12月13日（土）開催の記念演奏会に出演予定

4. 井野アーティストヴィレッジ

井野団地ショッピングセンターの空き店舗1棟（全7戸）を改装し、共同アトリエを「井野アーティストヴィレッジ」といって開設しました。若手芸術家の創作活動の場の提供と、街の賑わい・地域の活性化を図ることを目的としています。東京藝術大学が中心となって募集した若手芸術家に提供。7戸のうち1戸は東京藝術大学が管理のため利用しています。



オープンスタジオのチラシ
今年は11月23日（日）開催予定

5. JOBANアートライン協議会

常磐線沿線のイメージアップと沿線自治体の活性化を図り、アートを基調とした沿線情報の共有と発信を行っています。構成員は、常磐線沿線自治体（台東区，荒川区，足立区，葛飾区、松戸市，柏市，我孫子市、取手市）、JR東日本東京本社、東京藝術大学。事務局は取手市。

藝大生ライブペイント in アートアンブレラ（8団体）
JR東日本沿線の引き取り手のない忘れ物傘に絵を描くワークショップイベントを実施。藝大美術学部の学生によるライブペイントと、令和4年度からは藝大生のさらなる魅力を伝える手段として、音楽学部の学生によるライブ演奏を開始しました。取手市会場は、取手競輪場（楽天Kドリームスバンク取手）で11月17日（日）に行われた「サイクルアートフェスティバル2024」の一角で開催。323人の参加がありました。
今年は11月16日（日）に開催します。



6. たいけん美じゅつ場VIVA(四者連携事業)

東京藝術大学、東日本旅客鉄道株式会社、株式会社アトレ、取手市の四者が連携し、取手地区の活性化と発展を目指して協定を締結しました。その拠点として、取手駅ビル4階に「たいけん美じゅつ場VIVA」が誕生しました。VIVAでは、「対話型鑑賞プログラム」やアート・コミュニケータ「トリばア」の育成と活動などを通じて、取手市で多様な文化が育まれることを目指しています。

学校連携事業

VIVAの一角にあるオープンアーカイブで、藝大所蔵作品を自分の目で見て感じたことを他者と対話していく中で作品への理解を深めていく「対話型鑑賞プログラム」を、学校連携事業として実施し、児童生徒のコミュニケーション能力や論理的思考の育成を図りました。進行役は、VIVAが養成を進めているアート・コミュニケータ「トリばア」が担当しました。それぞれVIVAオリジナルのアートカードを利用した事前授業と、VIVAで本物の作品を鑑賞するツアーを、計14回実施しました。小学校4校、中学校1校の全294名が参加。今年度は、市内市立小学校全14校の3年生で実施中。



7. 取手アートプロジェクト

取手アートプロジェクト（TAP=Toride Art Project）は、東京藝術大学と市民及び取手市の三者が協力して企画運営し、アートを媒介に地域を活性化させることを目的とした共同の取り組み。芸術による文化都市を目指す取手のまちを活動の場として、アーティストの活動支援と、市民の芸術体験・創造活動の仕組みづくりにより、芸術表現を通じた新しい価値観の創造を目指して活動しています。

長期的視野に立った取り組みを通じて新たな価値観を創り出していくことを目指して、郊外のまちの特徴に着目した「アートのある団地」、「半農半芸」という2つのコアプログラムを中心に事業を展開しています。近年は「あしたの郊外を具現化していく」「持続可能なプロジェクトをつくる」「取手だからできる有機的な中間支援」「生活の場に継続的なかわりを結ぶ」をビジョンに活動しており、主だった事業は以下のとおりです。

- ①大地と関わる知を体験の中で学ぶ「耕すプロジェクト」
- ②高須で空あそびー大空凧プロジェクト
- ③市近隣地域の多様な主体とともに作りあげた「ひだまりのひマルシェ」
- ④地域に関わりながら暮らす創造的団地居住実験プログラム「そうぞうする団地」
- ⑤いこいの+TAPPINOの管理運営
- ⑥ART LIVES TORIDE

7. 取手アートプロジェクト

① 大地と関わる知を体験の中で学ぶ「耕すプロジェクト」



写真は、大豆畑のために構内の竹を切り出し、100%身の回りの自然にあるものからのものづくりに取り組み環境を整えていく活動の様子。80代のメンバーの知恵を、40-60代のメンバーが実践しています。



小文間地域にさまざまな場面で関わる人々との出会いをリサーチし、それぞれの生活史の語りを集めてきた新小文間物語。遊休地を開墾し生まれた舞台上で舞踏家、美術家、プロジェクトメンバー、地域の方々が出演者や鑑賞者となって時間をともに過ごしました。

7. 取手アートプロジェクト

②高須で空あそびー大空凧プロジェクト



高須地区に残っていた大凧の骨組みを活用し、高須の藁や地域の色で復活した十二畳の大凧が空に舞い上がりました。



十二畳凧、六畳凧と復活させて、令和5年度は、小凧100枚を連ねたアーチカイトが空に上がりました。凧の制作は地域の方も参加して行い、この時は、当初の実施日は雨天により一旦中止となりましたが、地域の方の声を受けて高須地域の公民館まつりと併せて凧揚げを実施しました。

8. 東京藝術大学美術館取手館と収蔵棟

取手収蔵棟は芸術資料の収蔵スペース不足を解消し、買上作品や自画像といった東京藝術大学ならではの作品を継続して保存・収集する目的で建設されました。本施設は、隣接する東京藝術大学大学美術館取手館と渡り廊下で繋がっており、収蔵作品を見学できる空間『魅せる収蔵庫』も設けられました。



手前が魅せる収蔵庫がある収蔵棟、奥が取手美術館。毎週火曜日に公開していますが、予約が必要です。



竣工式の参加者の魅せる収蔵棟での記念写真。現在は多数の作品が見られるようになっています。

9. なぜ芸術振興の施策を講じるのか

- 高齢者福祉
- 時代を生き抜く力のため（教育）

10. 芸術の持つチカラ

• 高齢者福祉

アートにおける「美」？、面白さや興味深さは、人の心や脳へのご褒美
—慶応大 川畑秀明教授—

高齢者で構成される劇団・楽団での活躍

60歳代から90歳代の高齢者が演劇や音楽で生き甲斐を得ている。高齢者施設や福祉施設、劇場やホールでも公演。

- 自分の役、人から見られる→自己肯定感
- 台詞を覚える。どのように表現するか考える→脳の活性化
- 本番の舞台に向けて一緒に作品を作りあげる→強い仲間意識の醸成

10. 芸術の持つチカラ

• 高齢者福祉

アートにおける「美」？、面白さや興味深さは、人の心や脳へのご褒美
—慶応大 川畑秀明教授—

アート活動に参加

高齢者施設でアーティストとともにアートワークショップを実施し、高齢者がアートの直接ふれあう機会をつくる。

- アーティストとふれあう→自分を表現できる機会ができた→高齢者の気持ちの解放
- 自分の考えで自分の作品をつくりあげる→言葉にならない言葉や整理できない思考を引き出す→本人の自信や尊厳の回復

10. 芸術の持つチカラ

• 高齢者福祉

アートにおける「美」？、面白さや興味深さは、人の心や脳へのご褒美
—慶応大 川畑秀明教授—

アートを鑑賞し、話し合う

認知症の人を対象に、絵画などの芸術作品を鑑賞し、鑑賞した作品について参加者同士で話し合う。

- 芸術作品に対して抱いた思いをアーティストとふれあう→自分を表現できる機会ができた→高齢者の気持ちの解放
- 自分の考えで自分の作品をつくりあげる→言葉にならない言葉や整理できない思考を引き出す→本人の自信や尊厳の回復

10. 芸術の持つチカラ

- 時代を生き抜く力のため（教育）
 - 知識、技能
何を理解しているか、何ができるか
 - 思考力、判断力、表現力など
理解していること・できることをどう使うか→未知の状況にも対応できる
 - 学びに向かう力、人間性など
どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか

10. 芸術の持つチカラ

・ 時代を生き抜く力のため（教育）

－知識、技能－

実際の社会や生活で生きて働く能力

各教科等に関する個別の基礎的・基本的な知識・技能の習得に終わるのではなく、既知の知識と関連付けたり組み合わせたりすることで育まれる、社会の様々な場面で必要となる能力

→アートに親しむと好奇心の芽が育つ

創造性や発想力の大元となる好奇心。「これはどうなっているのかな」、「こうするとどうなるのかな」、「あれと組み合わせよう」→好奇心を持つことは人生の課題を前向きに解決する力につながる。

10. 芸術の持つチカラ

- 時代を生き抜く力のため（教育）

- 思考力、判断力、表現力など—

- 理解していること・できることをどう使うか→未知の状況に対応

思考力—問題を発見し、自分の持つ知識を活用しながら問題を解決に導くための能力

判断力—必要な情報を取捨選択し、問題解決への方向性を定め、結論を決定するための能力

表現力—自分の意思・意見をどんな相手・状況であっても伝えられる能力

→アートに触れ、創作活動をするうちに「もっとうまく作る(表現する)にはどうしたらよいか考えるようになる。

10. 芸術の持つチカラ

- 時代を生き抜く力のため（教育）

- 学びに向かう力、人間性など–

- どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか

- 受動的に学ぶのではなく、主体的に学習に取り組む態度も含めた学ぶ能力

- グローバル化によってより多様化する世界を尊重し、様々な人々と共同する力や豊かな感性や他者への思いやりの心などを持ち合わせた人間性

- アートに親しむ、アート活動に参加するなどの機会に様々な表現形式に触れ、思いがけない世界があることを実感し、自分と違う他者を認め、共感できるようになる。

10. 芸術の持つチカラ

- 子どもが生きていくうえで必要だと思う力とそれを育てるに最も役立つ科目（資料：TOA株式会社 音楽と教育の意識調査 N=500）

1 心の豊かさ 53.0% 1位 音楽 2位 国語 3位 図工・美術

2 コミュニケーション力 50.6% 1位 国語 2位 外国語 3位 音楽

3 表現力 23.4% 1位 図工・美術 2位 国語 3位 音楽